



① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「声」の上の部分は「土」ではなく「士」と書く。②「行」の訓読みは他に「いく」「ゆく」もある。ひとつの漢字に複数の読みがあるものは特に気をつけよう。③「合」を「会」としてしまわないように気をつけること。「囟」のくきがまえの中の形にも気をつけよう。④「家」は九画目と十画目をつづけ字にしないようにする。⑤「買売」と書いてしまわないように気をつけたい。「売り買い」と覚えておこう。

②

1 A (A) のあとからこう星の話に変わっている。「では」がはいる。  
 B (B) の前では星は明るさで六つに分けられているということが書かれているが、あとでは一等星ならばどれも同じ明るさというわけではないと書かれているので「しかし」がはいる。  
 C (C) のあとには明るさが少しづつちがう一等星の例が書かれているので「たとえば」がはいる。  
 2 はじめの段落に、わく星は「太陽の光をはねかえて光っている」という説明があり、次の段落に「太陽のように自分で光っているこう星ではどうでしょう」というこう星についての説明がある。通読時に本文中にあることばの説明はおさえていくようにしたい。

3 「本文に書かれているあとの□の中にある星について」という条件を見おとさないように注意したい。  
 地球からのきよりは遠い順に  
 デネブ(千八百年) ↓リゲル(八百六十年) ↓ベテルギウス(五百百年) ↓シリウス(八・六百年)  
 となっている。

このことからIはウ「デネブ」、IIはア「シリウス」とわかる。  
 IIIはウ「デネブ」やカ「太陽」をえらんでもいけない。問いの「夜空でいちばん明るい星」から、本文ははじめの一文に書かれているエ「金星」が正解になる。ウ「デネブ」は星そのものの明るさがいちばんの星だし、カ「太陽」は夜には見えない。  
 4 ア 本文第六段落のはじめに「シリウスがいちばん明るく見えるのは、地球から近いところにあるからです」とあるので本文の内容にあっている。  
 イ 本文第三段落に「こう星の中でいちばん明るいのは、……『シリウス』という星です」とあるので本文の内容にあわない。デネブは「地球から同じきよりのところ」にあればいちばん明るく見えるのである。

③

1 Aは具体的にはっきりと示さない「ある」だが、BとCの「ある」はそこに存在している、「ある」「なし」の「ある」である。  
 2 「たいくつに」ということばを手がかりにさがしていくと、本文第一段落に「まるで仕事もなく、朝から晩まで、じつと立っているだけなので、たいくつでしかたがない」がある。  
 3 ② 仁王がさんぽにでかけたのは「夜なら、(さんぽにでかけても) ②に見られることはない」と考えたからである。夜だと外に「人」はいないので見られることもないのである。直後にある「だれもない夜でも」も手がかりになる。  
 ⑤ ばあさまはおならをしたのに「知らん⑤」でいる。次の段落に「そのすまし顔がおかしいので……」とあるので、「知らん⑤」は「すまし顔」に近い意味ではないかと考えられる。  
 4 直前の「へええ」や次の段落にある「仁王さまは、目をかがやかせた」などから考えればよい。  
 5 ④ 直後の「おならをこいた」につながるものをえらぶ。  
 ⑥ 直後の「わらった」につながるものをえらぶ。  
 「ぱちんと」はものが当たったり、はじけたりしたときの音をたとえたもの、「ぼとりと」は水滴が落ちる音や物が軽く落ちるようすをたとえたものである。  
 6 二つめの⑦がある段落に「ばあさんが⑦かど、たずねたのを、自分のなまえがよばれたものと思いこんでしまった」とある。ばあさんはおならをこいたので、戸口のほうにいるだけに「におうか? (臭うか? / くさいか?)」と言ったのだが、仁王はばあさんが「仁王か?」とたずねたと考えたのである。  
 7 仁王が今いるのは、ばあさんの家の戸口である。